

2013年度 学校評価(自己評価)

2013年度は次の各項目を重点目標として設定し、その他の教育活動も含め、さらなる向上を図った。

1. Waseda Vision 150 に基づく高等学院の将来構想の具体化
2. 日常教育活動全般の充実と改善
3. 中学部と高校の円滑な接続
4. 高校新教育課程の適切な実施
5. Waseda Vision 150 で改革を進める本部・各学院との連携強化
6. より開かれた学校に向けての施策
7. 第2期工事の順調な進捗と第3期以降の展望
8. 高等学院教育環境整備充実募金最終年の活動
9. 大地震への備え、および生徒教職員の安全確保

以下、各目標についてその遂行状況を概観する。

1. Waseda Vision 150 に基づく高等学院の将来構想の具体化

大学本部、学院の将来構想をふまえて大学と連携を強化しつつ、高等学院でも独自に将来構想を検討した。グローバルリーダーとして世界に貢献する高い志を持ち、社会を支える意思をもつ学生を育てる仕組みをさらに強化するため、2014年度に文部科学省がスタートさせるスーパーグローバルハイスクール指定へ向けての取り組みを開始し、3月末に指定の内示を受けることができた。また、授業だけでなく、これまで高等学院が培ってきた自学自習、自主自立を育てる環境、たとえば部活動、プロジェクト活動、国際交流、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)活動などを充実させた。

2. 日常教育活動全般の充実と改善

ハード面での充実が進んだ。とはいえ、依然としてキャンパス全体が工事中のため、生徒・教職員の動線と合理的な移動経路の確保は難しかった。また、ソフト面では教科指導、生活指導、保護者との連携など、さらなる内容の充実をはかった。各種スキル向上のため、Waseda-net を用いたオンデマンドコンテンツ、ワークショップ参加など、様々な機会の利用を促した。

3. 中学部と高校の円滑な接続

2013年度に中学部から初めて高校に進学した。中学部卒業生は学力面、生活面で学校全体をリードしていく可能性がある人材が育っており、2年後に3学年揃った折にはこれまで以上の活躍が期待される。全般的にはカリキュラムや生活面等で問題なく高校生活をスタートさせることができた。また、中高それぞれの境界領域では、教科指導面では担当者の兼任、中学部3年生のクラブ活動参加、その他SSHの活動などで円滑な協力ができた。まだ経験値が少ないため、これからも、どの程度、どのような接続が望ましいか、さらに検討を加えていく。

4. 高校新教育課程の適切な実施

2013年度から新教育課程がスタートした。必修単位数の増加、その他の再編があったが順調にスタートすることができた。今後、新教育課程は学年進行で進むが、留学等、複数学年にまたがる生徒の単位認定等、具体的に決めていく。

5. Waseda Vision 150 で改革を進める本部・各学術院との連携強化

Waseda Vision 150 に記される本部・各学術院の内容をふまえ、高等学院教育の質的向上が図れるよう、いくつかの学部と協議を進め、具体的な内容をつくった。高等学院の目標は、基本的に大学および各学部の方向と軌を一にしているため、今後も連携を深めながら進めていく。

6. より開かれた学校に向けての施策

国際化、地域での協働等、外部プログラムへの参加を積極的に促し、参加が増えるよう努めた。また海外からの訪問者を積極的に受け入れるなど、高等学院において生徒が外部、海外の方々と多く触れ合えるような機会を増やすようにした。

7. 第2期工事の順調な進捗と第3期以降の展望

第2期工事のうち講堂が2014年3月10日に竣工式を迎えた。次年度7月頃には体育館棟が完成し、ハード面の整備が進むことになる。理科教室などを含む第3期以降については、今後の重要課題である。

8. 高等学院教育環境整備充実基金最終年の活動

卒業生、保護者をはじめ各界から最終的には4億円を超える寄付をいただき、教育環境の整備に資することができた。

9. 大地震への備え、および生徒教職員の安全確保

新3年HR棟校舎の竣工により、HRについてはすべて新築の建物への移動が終わった。次年度以降は、特に緊急時の連絡方法などを含めたソフト面での整備をよりよいものにするため、研究を進め、実現を目指したい。なお、新講堂棟に専用のスペースができたため、備蓄品をより充実させることができるようになった。

以上

2013年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

2013年度の重点目標の内「2. 日常教育活動全般の充実と改善」をより一層推進するため、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施した（2012年度に引き続き2回目）。以下（1）質問項目、（2）アンケート結果、（3）アンケート結果の分析と改善点等を述べていく。

（1）質問項目

I 学校全体の取り組みについて

- I-1. 高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている
- I-2. 【保護者】高等学院は大学との一貫教育の推進に努めている
【生徒】（高校）高等学院は大学との一貫教育の推進に努めている
（中学）高等学院は中高連携に努めている
- I-3. 高等学院は国際交流の推進に努めている

II 学習指導について

- II-1. 指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている
- II-2. 生徒の進度やレベルに合った授業が行われている
- II-3. 生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている
- II-4. 適切な評価が行われている

III 生徒指導について

- III-1. 組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている
- III-2. 組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている
- III-3. 組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている
- III-4. 組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている
（生徒は高校のみ）

IV クラブ活動について

- IV-1. 生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている
- IV-2. 部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている
- IV-3. 部長（顧問）は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している
（生徒は高校のみ）

V 授業や勉強へのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

- V-1. 私は授業に積極的に取り組んでいる
- V-2. 私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている

(2) アンケート結果

別紙の表およびグラフを参照していただきたい。

(3) アンケート結果の分析と改善点等

I 学校全体の取り組みについて

質問項目 1. 「生徒の自主性・自立性の育成に努めている」においては保護者全体で 61.2%（昨年度 61.5%）、生徒全体で 35.5%（昨年度 44.6%）が「そう思う」と回答している。生徒全体では「そう思う」の評価が昨年度より下降したが、「ややそう思う」の評価を加味すると、生徒全体で 73.6%（昨年度 77.9%）の回答を得たことになる。本校の目指す教育理念として「生徒の自主性・自立性の育成」をさらに実践していく必要があると思われる。

質問項目 2. 「高大一貫教育の推進に努めている」（高校）、「中高連携に努めている」（中学）では、高校の方は高校生全体で「ややそう思う」が 39.5%（昨年度 33.7%）と最も多く、「そう思う」と合わせると 68.3%（昨年度 68%）となった。昨年同様、高い評価を得ており、高大一貫教育の推進をこれまで通り進めていくことが必要である。一方、中学では昨年度は質問項目を高校と同じ「高大一貫教育の推進に努めている」にしていたが、今年度は「中高連携に努めている」に変更した。中学生全体で「あまりそう思わない」が 31.8%と最も高い結果となった。今後は高等学院において可能な中高連携の在り方を模索し、実践していく必要があると思われる。保護者の方では、中高とも同一の質問項目「高大一貫教育の推進に努めている」に対して、昨年度同様に「そう思う」が最も高い結果を得た。

質問項目 3. 「国際交流の推進に努めている」では生徒全体で「ややそう思う」が 40.6%（昨年 38.8%）、保護者においても「ややそう思う」が 45.1%（昨年度 43.9%）と最も多く、生徒・保護者とも昨年度より微増している。グローバル社会を見据え、今後さらに国際交流活動を推進することが必要である。

II 学習指導について

昨年度と同様に保護者・生徒とも質問項目 3. 「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」に対する評価が相対的に低い。ただ低評価（「そう思わない」）ということではなく、「どちらとも言えない」が最も多いのも昨年度と変わらない点である（保護者全体 33.5%、昨年度 34.1%、生徒全体 34.9%、昨年度 32.2%）。生徒に対する細やかなサポートを行いながら、生徒一人ひとりの学力を伸ばすことに取り組むことが求められている。

また、質問項目 2. 「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」においても、昨年度と同様、高校生の回答が 3 学年とも「どちらとも言えない」が最も多い結果となった（高校生 32.8%、昨年度 30.2%）。さらに同項目における中学生全体の回答では「ややそう思う」が最も多い回答（37.0%）ではあるが、中学 1・2 年生に限定すると「どちらとも言えない」が「ややそう思う」をそれぞれわずかながら上回る結果となっている。質問項目 3 とも関わる点だが、これまで以上に生徒一人ひとりの進度やレベルを適切に捉え、生徒の学力を伸ばす授業を意識して行う必要があると思われる。

Ⅲ生徒指導について

1～4全ての項目において「そう思う」あるいは「ややそう思う」が各学年とも最も多い回答になっており、保護者・生徒ともに高評価が得られている。組主任と生徒・保護者との関係が良好なものであり、生徒に対する生活面・学習面でのサポート態勢が組み立てられていることが、この結果から理解される。

また、卒業生全員が早稲田大学へ進学することが前提となっている本校では、早い段階から生徒へ意識づけを行い、自身の進路について考えさせる教育を行っている。そのため、学部説明会やモデル講義、本校OBである学部生・大学院生と本校生徒との懇談会等を開催し、学部・学科の情報を生徒・保護者へ伝えている。これらの取り組みについては、今後益々力を入れるようにし、生徒による適切な進路選択に結びつけていきたい。

Ⅳクラブ活動について

質問項目1.と2.については昨年と同様、保護者・生徒ともに概ね高い評価が得られている。ただし、高校生への質問項目3.「部長（顧問）は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している」が昨年度より低い評価となっている。「そう思う」22.7%、「ややそう思う」23.3%、に対して「どちらとも言えない」が23.7%と、わずかながら最も多い回答になっている。一方、同じ質問項目に対する保護者の回答は、保護者全体で「そう思う」23.5%、「ややそう思う」26.7%と昨年度（「そう思う」21.0%、「ややそう思う」26.3%）より高評価が得られており、少しずつではあるが、部長（顧問）と保護者との連絡態勢を密にしていくよう、今後も取り組みを行ってきたい。課外活動の中でも多くの生徒が加入しているクラブ活動の意義は大きい。クラブ活動を通してより多くのことを生徒が学べるように、安全面に配慮しながら、今後も活動を活性化させることが重要である。

以上